RMAN バックアップのリポジトリ情報（バックアップ採取記録情報）とバックアップ物理ファイルとの存在整合性チェックの実施

RMAN リポジトリから不整合ファイルのレコード削除

RMAN バックアップのリポジトリ情報（バックアップ採取記録情報、Oracle によるアーカイブ Redo ログ・ファイルの出力記録情報）とバックアップで出来た物理ファイルとの存在整合性チェックの行う

＝ バックアップしたファイルが、バックアップ先のフォルダに存在しているかのチェック

rman> CROSSCHECK　＜バックアップした対象オブジェクト＞；

このチェックを実施することにより、RMAN バックアップのリポジトリ情報の各ファイルを示すレコードに、ステータスがセットされます

バックアップファイルが、ディスクに存在する場合
　crosscheck backup piece　：　found to be 'AVAILABLE'
　backup piece handle＝ /backup/dataspace/・・・・・・

バックアップファイルが、ディスクに存在しない場合
　crosscheck backup piece　：　found to be 'EXPIRED'
　backup piece handle＝ /backup/dataspace/・・・・・・

＜バックアップした対象オブジェクト＞

- archivelog
- backup
- backuppiece
- backupset
- copy
- controlfilecopy
- datafilecopy
- foreign
- proxy

リポジトリ情報（バックアップ採取記録情報）とバックアップ物理ファイルが不整合のレコードの削除

＝ リポジトリ情報（バックアップ採取記録情報）のステータスが EXPIRED のレコードの削除

rman> DELETE　NOPROMPT　EXPIRED
＜バックアップした対象オブジェクト＞；

【参考情報】

リポジトリ情報（バックアップ採取記録情報）とバックアップ物理ファイル両方の削除

rman> DELETE　NOPROMPT ~~EXPIRED~~
＜バックアップした対象オブジェクト＞；